

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬	写真・後藤
山行 NO.	2000	
日 時	2022 年 11 月 05 日 (土) 晴れ	
山 域	天城・猿山 (1000m)	
コース	長泉 6:00 ー河津七滝ー萩ノ入りゲート 7:57 ー黄金橋ー南東尾根 8:00 ー標高点・788m ー南東の科尔 (・788 コル) ー鉢巻道ー大スギ 9:46 ー南の科尔 (・805 コル) ー猿山三角点 10:57 ー昼食 (祝賀会) 11:21~12:56 ー南東尾根ー南東の科尔 13:51 ー萩ノ入りゲート 14:59 ー長泉 (反省会)	
標高差	上り・下り 萩ノ入りゲート約 380m~猿山 1000m=約 620m	
藪漕度	なし	
難易度	非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
<b>2000 回登山と狂ったコンパス</b>		
参加者	後藤、加藤、井上、伊藤、合谷、山田敬=6 名	

今回は後藤さんの通算 2000 回記念山行。

仮に年間毎週 1 回山に行くとして、約 50 回。それでも 40 年かかる。後藤さんは 18 歳から登っていたという。年間の回数は年によってばらつきがあるとしても、75 歳まで登り続けられているという体力、精神力はすごい。そして、後藤さんがすごいのは、その山行記録をすべて残しているということ。これも続けることは容易ではない。記録を残していけば、同じ失敗を避ける確率は高まる。自分の経験を自分だけでなく他の人も参考にすることができる。とても理にかなったことだが、私をはじめ凡人は、やった方がいいことを、わかっているもできない。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/page171.html>

<http://susono-reihou.babyblue.jp/page116-19.html>

今回の山行では、「地図読み」が 1 つのテーマだった。猿山という情報の少ない山に入り、地図を頼りにして登っていく。登山口につくまでの車中で後藤さんが地図をコピーして用意してくれて、「そもそも地図とは」という定義から講義は始まった。

今は YAMAP をはじめいろんな GPS アプリがあるので「アプリを見ながら行けばいいじゃん」と私のような初心者は思いがちだが、通常ルートとは違うアプローチをするときや GPS が使えなくなった時などは、紙の地図が読めないと遭難リスクがある。

後藤さんは「地図を読める」(ちなみに、地図は見るモノでない) ようになるには 1 年かかると言っていた。登る前に地図を見て、地形をイメージして、実際に歩いてイメージとの差異を確認して学習する。そういう経験の繰り返しが必要ということ。

後藤さんが 2000 回記念というタイミングだからこそ、メンバーにどうしても伝えたかったことの一つだったと思う。

ということで、地図の勉強をしてから、萩の入川ゲートに車を停めて、7 時 50 分出発。はじめは沢の脇の山道を橋のある地点まで回り込み、黄金橋を渡ってから沢の対岸を戻っ

て、8時30分ごろから山の尾根を登る。1時間で280m上がる。1時間で標高300mは標準らしいが、今回は山頂で2000回のお祝いの宴をするので、ガスコンロや鉄器、食料、お湯、鍋などを分担して、持ち物が多いので通常よりたいへんだ。少し休憩。

途中、現在を確認するために地図で確認してと言われて、自分のコンパスを出して地図に合わせた。すると、あれ？私のコンパスだけ南北が逆を指している。



狂ったコンパス

「こりゃ不良品だよ。まったくひどいね。取り替えてもらわにゃ」という話でその場は終わった。が、後藤さんが後日調べてくれたら、強力な磁石をコンパスに当てれば、方位の修正はできるとのことだった。（コンパスは新品。強磁力の場所など保管は注意）

休憩後、トラバースの道を30分ほど進む。その後は山頂を目指して、バリエーションの斜面を登る。11時00分、猿山山頂に無事到着。加藤さんが用意してくれた2000回おめでとうのメッセージボードとともに記念撮影。後藤さん、本当に偉業達成、おめでとうございます。



猿山三角点



その後、猿山山頂南の見晴らしのいい場所へ移動して宴を開始。今日はキノコ汁や焼肉や焼き鳥があるので、昼食のセッティングもたいへん。みんなでシートを持ち寄り、ガスに点火。火を囲んで始める。

キノコ汁は加藤さんが山で採ってきてくれたキノボリイグチとハナイグチというキノコを味噌でいただく。おいしい。この味噌はキノコにあう味噌を食べてほしいと加藤さんがわざわざ長野の諏訪まで片道2時間30分かけて行って買ってきてくれたとのこと。後藤さんはレジェンドだが、加藤さんの行動力もすごい。

ブナのきれいな紅葉を眺めながら、肉を食べて、ビール、日本酒（八海山）、ワインもやって最高。下界で高いお金を払って食べるよりも、こっちの方がいろいろな意味で贅沢だ。お腹も満たされ、いい感じにできあがったところで、撤収。景色は素敵だが、この時期の標高1000mは時間がたつとそれなりに寒い。

若干ほろ酔いで南東尾根下山をはじめ、途中、見事な倒木で記念撮影をしたりしながら、行きとは違うバリエーションのルートで帰る。山頂から30mくらい下ってから、分岐するところを正しく進むのがむずかしいと後藤さんは行っていたが、先頭をいく加藤さんが天性の嗅覚というか動体視力なのか、地図が立体的に読めるのか、間違えずに予定ルートを下って、後藤さんから「お見事！」と称賛されていた。

加藤さんも2000回登った時にはお祝いをして貰いたい。しかし「登った数はいちいち数えていない」という。そこが加藤さんらしい。別のすごさである。山に登ると森林限

界という境界があるが、後藤さんと加藤さんは、私から見ると普通の人の「人間限界」を超えている。そういった方と一緒に山行できることは貴重な体験で、非常にありがたいことだ。



猿山にエビが・・・

難所を下った後は、来た道に戻るだけなので、私が先頭でがらがん下ったが、途中、「あれ？山ちゃん、これって合ってる？」と後藤さんに言われ、GPSを確認すると行きと違うルートを外した尾根を降りかけていた。

行きはピンクリボンや木の幹に記された白いペンキを目印に登っていたので、帰りはそれを頼りに下れば良いと思って地図やGPSをあまり見なかった。結局、全員が正しいルートまで登り返しとなってしまった。

申し訳ない。あとで地図を見ると麓に近くなるほど尾根は緩やかになり、似たような地形で分かれている。木立の中を延々歩いているので、登った景色を正確に記憶するか、現在地の確認をしながら慎重に下らないと間違える。他のメンバーには申し訳なかったが、地図読みとしてはいい勉強になった。下山の難しさと怖さを感じた。

その後は順調に下って、ゲートに到着したのは15時20分。秋で日没時間は夏より早く、暗くなる前に下山できた。いい山だった。

反省会では、後藤さんは自分の記録やこれまでの軌跡よりも（それはブログに残してあるのでしっかり読んでほしいという強い思いはありつつ）、自分が山で学んだことや、山について知ってほしいことを今後の人にどう伝えていったらいいのかが重要だと言われていた。

時代とともに、良くも悪くも山と人との付き合い方は変わっていく。記録やデータの残し方や個々の学び方、交流の流儀も変化していく中で、「何をどのように継承していくのがよいのか？」は正解がない。

今日の地図読みは後藤さんが実践してくれた一例だが、メンバーが個々にその気持ちを持って自身に問い続け、後藤さんに教えてもらったことを少しずつ他の人に実践できれば、それが後藤さんの2000回山行の真の功績になるだろう。（なんか最後、新聞の社説風になっちゃいました笑）とにかく、後藤さん、おめでとうございます。今後も引き続きよろしくお願ひします。



キノコ鍋



大ブナ



